

ルール解釈の要点および

重点項目

(財)日本アイスホッケー連盟
レフェリー委員会

• ルールの解釈

- A) 2010-14 IHFルールブック 再確認
(資料:ルールブック・ケースブック)
- ①競技エリアよりパックを打ち出す行為(554条-c)
- 保護ガラスもしくはボードを超えた
=ペナルティー
- プレイヤーズベンチの中
=ノーペナルティー
- 保護ガラスのないペナルティーベンチ
=ノーペナルティー
- いかなる方法でパックが跳ね返った場合
=ノーペナルティー

②アイシング時にGKがクリーズから離れた状況のジャッジメント (460条-d)

- ・パックが打たれた後にクリーズから離れた
=ノーアイシング
- ・パックが打たれた時に、クリーズの外にいた
=クリーズに戻らなければノーアイシング
- ・プレイヤーと交代するためにプレイヤーズベンチに戻る状況
=アイシング

③アイシング後のプレイヤーチェンジについて

・アイシングをしたチームのプレイヤー(GK)の交代は認められない

* 但し、負傷したプレイヤーおよび既にベンチに退いていた GKを戻すための交代は認められる

* タイムアウトを要請しても、その後の交代は認められない

= レフェリーは、交代しようとしたまたは、したチームに対し警告を与える

④フェイスオフ時の状況(440条d・g)

- ・エンドゾーンでのフェイスオフ
- ・ニュートラルゾーンでのフェイスオフ

⑤スティックを投げる行為(568条・569条)

- ・ニュートラルゾーン・アタッキングゾーンでスティックを投げる
- ・ボードを越えてスティックを投げる
- ・パックに対して
 - ＝その時の要素によって限定

⑥ プレイヤー・キャプテンによる抗議

ーキャプテンは、レフェリーに対する質問のためにベンチを離れる事は、できない

●キャプテンは、この状況において氷上にいる事が条件
・レフェリーに対するガイドライン

●キャプテンはベンチに戻るよう指示され警告を受ける
2度目の違反があった場合
＝ミスコンダクトペナルティー

●いかなるプレイヤー/キャプテンがペナルティーに対し抗議
した場合
＝ミスコンダクトペナルティー

●ペナルティーを科せられたプレイヤーが直接ペナルティー
ベンチに行かない場合
＝ベンチマイナペナルティー

⑦わいせつなジェスチャー(550条・551条)

- ・プレイヤー及びチームオフィシャルによる行為
＝マッチペナルティー

⑧得点後のマイナーペナルティーのキャンセルアウトについて
(501条)

- ・IIHFケースブックの例を参照

- ⑨ゴール時に、スケートに当たったパック及びパックを蹴る行為
- ・スケートにパックが当たり直接ゴールに入った
＝ゴール
 - ・キッキングアクションがあった(蹴る行為)
＝ノーゴール
 - ・解説
 - ターン、ブレーキによりパックをスケートに当てゴールした
＝ゴール
 - 蹴ったパックが他のアタッキングプレイヤーのスティックに当たりゴールした
＝ゴール

⑩ゴールキーパーの保護

- ・可能な限りそのプレイヤーはGKを避ける責任がある
- ・GKを保護することは、ゲームオフィシャルにとって重要な事項である
- ・アタッキングプレイヤーがGKの背後のクリーズを通り抜ける
＝もしGKが下がりそのプレイヤーに当たった場合、そのプレイヤーにペナルティーを科す
- ・GKのグローブに対するスラッシング
- ・IIHFのDVDを参照

B) IIHFルール重点項目の説明

①反則基準の再確認

- ・重要な事柄である
- ・フッキング、ホールディング、インターフェアランス
=IIHFのDVDを参照

②危険な行為

- ・わかりやすい解釈=IIHFのDVDを参照
- ・ガイドライン

《チェックング トウ ザヘッド》

- ・ 正当なチェックではなく、頭部付近を打撃する行為
- ・ 3通りのペナルティーが与えられることを確認
 - 2+10、5+GM、マッチ(負傷時)
 - 身体のいかなる部分、肘・前腕・肩もしくはヒップを使って直接頭部頸部を打撃する行為
 - ペナルティー
 - 保護ガラスまたはボードに対し頭部を強く押し付ける行為
 - ペナルティー
 - 乱闘またはいさかい中に直接頭部を殴る行為はラフイングとして解釈する

《チェックング フロム ビハインド》(C. F. B.)

- ・3通りのペナルティーが与えられることを確認
= 2+10、5+GM、マッチ(負傷時)
- ・C. F. B. は、ボード際だけではなく氷上のすべてのエリアで起こりうる
- 背後より直接角度をつけずヒットする
=ペナルティーのガイドライン
- チェックを受けるプレイヤーが相手が来るのをわかっていてターンしてヒットされる
=CFBではなく、チャージング・ボーディングもしくはノーペナルティーとして判断する
- チェックを受けるプレイヤーもヒットされる事を予測し自分自身を保護できる状態を保つ事
- ・レフェリーは、背後からのいかなるヒットに対し厳格に判断する事

③スラッシング

- ・プレイヤーの安全性を抑制する
- ・パックに対してプレーする事を試みずに、手、手首、ひざ、足首、ふくらはぎ、アキレス腱をスティックで叩く行為
- ・相手を脅すためにスティックを振り回す行為
＝ペナルティー
- ・体を接触させパックを取りに行く際、スティック操作に注意する事
- ・ペナルティーの選択を正しく判断する事

④トリッピング(足を振り回す)

⑤女子ホッケーのガイドライン

C) プレイヤーの行為

① ダイビング

・判断要素

- i) チェックされたプレイヤーがダイブした
=ダイビングによるマイナーペナルティーを科す
- ii) レフェリーは、序盤にその反則に気付くべきである
=ダイブの可能性を避ける
- iii) 明らかに相手の反則がないならば、レフェリーはそのダイブに対しコールすべきである
- iv) レフェリーが相手のペナルティーをコールした後に、ダイブの行為が起こったならば
=両方にペナルティーを科す

②ホイッスル後の殴り合い・ラフプレイ・スクラム
ーレフェリーの見解で決定される

- ゲームオフィシャルは、素早くそのいさかいをやめるよう指示する
- マッチペナルティーを科す事は、重大さを強調する事である
- レフェリーはホイッスル後、以下の3つの選択肢の中から厳格に素早く指示をする事
 - v)氷上のプレイヤーに警告を発する
 - vi)コーチに警告を発する
 - vii)直ちに、内容の程度にあったペナルティーを科す
- レフェリーは、いかなる時にも可能な限り、扇動もしくは後から介入してきたプレイヤーに対し差をつけてペナルテを科す事

D) ゲーム進行時の手順

- ① 防具・危険な用具ーヘルメット・バイザー・顎紐は正しく着用
するよう説明する
 - ・それぞれの年齢カテゴリー規定を再確認する事
 - viii) 20歳未満のプレイヤーは、マウスガードが必要である
 - ix) 首とのどのプロテクターは、全ての18歳未満のカテゴリー
で必要である
 - ・GKの頭部および顔面の防具についてのガイドライン
 - ・試合前の練習時には、全てのプレイヤーがヘルメットを着用
しなければならない

- ・いかなる違反についても1度目は警告、2度目からはミスコンダクトペナルティーを科す
- ・プレー中にプレイヤーのヘルメットが脱げた場合
- ヘルメットが脱げた場合は、直ちにプレイヤーズベンチに戻らなければならない。
=戻らなければ (マイナーペナルティー)

②フェイスオフの手順

- ・プレーが止まってからの手順を、再確認する事
- ・ラインズマンがホイッスルを吹いたならば、プレイヤーは素早くラインナップする事
- ・同じチームのプレイヤーがフェイスオフの違反を犯した場合
＝センターフェイスオフプレイヤーを交代させる

・ラインズマンは、遅延させずに素早くフェイスオフを行なう事

●プレイヤーがフェイスオフ時に遅れて参加したり一人しかいない場合の手順

・遅延によりフェイスオフ時に、プレイヤーが1人しかいない場合
パ

ックが落とされる事もある

・交代が遅い時、レフェリーはチームに警告をする責任がある
(ラインズマンは、そのフェイスオフのプレイヤーを取除かない事)

③選手の交代

- ・プレイヤーの交代が遅い時には、コーチに対し口頭で警告を与え、その後違反が再度行われた場合

＝ベンチマイナーペナルティー

x) それぞれのチームに対し、1度ずつの警告である

- ・同時に交代する全てのプレイヤーに注意する事

- ・プレー中の交代において→ベンチ前の**仮想1.5m**

- ・交代に戻ってくるプレイヤーが、まだ氷上に残っている時にベンチからの交代選手が氷上に参加しパックをプレーした

- * 相手プレイヤーにチェックもしくはチームに有利になる行為

を

した場合

＝ペナルティー

④負傷したプレイヤー

- ・レフェリー・ラインズマンはプレーを止める事ができる
- ・負傷している可能性がある場合、ドクターに直ちに氷上に入るよう指示をする。
(特にパックが 顔面や胸の部分に当たった場合)
- ・スコアリンクケースで場面で、負傷した可能性がある場合には直ちにプレーを止める
- ・スコアリングケースの場面では、その限りではない
- ・瞬時のスコアリングケースならば、その状況が完了した後にレフェリーはプレーをストップさせる。
- ・GKの頭部もしくは顔面にパックが当たり跳ね返った場合
＝強いショットか否かにより判断する

⑤タイムアウトのとり方

- ・フェイスオフでのチェンジ後、いかなるチームもタイムアウトを取る事ができない
- ・プレイヤーの交代が完全に終了し、プレイヤーとオフィシャルがフェイスオフの位置にいる時は、いかなるチームもタイムアウトを取る事ができない
- ・タイムアウトはいかなるプレイヤーもレフェリーに要求する事ができる

(タイムアウト中、GKはウォーミングアップをする事はできない)

xi) タイムアウトの要求をするためにベンチを離れたプレイヤーは、直接レフェリー方向に向かう事

- ・両方のチームが同じストップ時に続けてタイムアウトを取るならば、最初のタイムアウトが終了する前に要求しなければならない

⑥PSの手順

- ・選択肢はない

 - ＝PSを行わなければならない

 - (反則を受けたプレイヤーがPSを行う)

- ・ショットを受けるGKは、プレイヤーがパックに触るまでクリーズ

 - 内に留まらなくてはならない

- ・PSの判断基準

 - ＝ルール508条参照の事